

# 「ネパールにマスクを」



集まったマスクを手にする渡辺豊博専務理事—静岡県三島市芝本町のグラウンドワーク三島事務所

**新型コロナ**

GW三島は、2015年のネパール大地震の被災者支援をしたり、首都カトマンズの世界遺産の寺院にパオトイレを設置する計画を進めたりと、ネパールと交流がある。現地の衛生状態が悪く、新型コロナウイルスの感染も広がっているため、6月中旬からマスクの寄付を呼びかけていた。

集まったマスクの内

## 静岡のNPO 寄贈募り7081枚

訳は、市販不織布マスク4806枚▽市販布マスク259枚▽手づくりマスク1124枚▽アベノマスク892枚—だった。また、マスクのほかに、固形せっけん134個▽液体せっけん日本▽フェースシールド12個—なども寄せられた。

一人で14枚のマスクを手づくりした女性、集めたアベノマスクに髪の毛などの異物が混入していないかを開封して検品してから寄付した人もいた。渡辺専務理事が都留文科大特任教授を務めていることから、北海道や山口県の教え子からも届いたという。

ネパール航空が、ネパール大使館職員や日本に取り残されたネパール人の帰国のため、8月中旬に特別便を飛ばすことを計画しており、マスクはこの特別便で現地に送るとい

静岡県三島市のNPO法人グラウンドワーク三島（GW三島）が、ネパール日本友好協会（大月市）と協力し、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにネパールに届けるマスクの寄贈を募ったところ、7081枚ものマスクが集まった。GW三島の渡辺専務理事は「余ったアベノマスクが集まるのではと想像していたが、手づくりした人や買い求めてくれた人が多かった。薄くて緑も薄いネパールの人を心配する日本人の優しさに感動した」と喜んでい

【石川宏】